

さよなら
特養！

少人数の
家族的な空間

泊りよし、通いよし、
訪問ししの24時間対応

住み慣れた
地域密着型

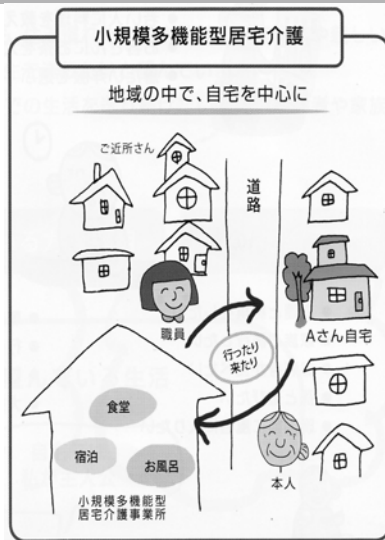
小規模多機能型居宅介護施設

で、オーダーメイド福祉 / 地域コミュニティ再生の藤沢市へ。

高齢者介護のための施設と言えば「老人ホーム」を思い起こされる方が多い。行政においても、従来この「特別養護老人ホーム」をとにかく数多く作ることが、需要に応える最良の方法と考えられ建設が続けられてきたのだが、介護保険制度において、2006年からスタートした地域密着型サービスの一つ「小規模多機能型居宅介護施設」に、いま注目が集まっている。

特に、藤沢市においても優れた小規模多機能施設が目立ってきており、これを質・量ともに充実させ、身近な地域の交流拠点としていくことが、高齢者福祉にとって、地域コミュニティ再生にとって、財政にとっても重要な施策であると、原田トモコ市議が議会で具体的な質問、提案を進めてきた。

「小規模多機能」とは、どのような施設で、どのような課題があるのか。また、市長が掲げる「藤沢再生」の重要な要として、「小規模多機能」を活用したまちづくりについても、皆さんに提案し、率直なご意見を頂きたいと思います。



要介護度	介護保険自己負担額
要支援1	4,469円
要支援2	7,995円
要介護1	11,430円
要介護2	16,325円
要介護3	23,286円
要介護4	25,597円
要介護5	28,120円

各種加算（該当者のみ）
初期、認知症、看護職配置、リハビリ等の各種加算
食費、宿泊費、おむつ代、理美容代、趣味活動費等

1カ月費用目安
（小規模事業所連絡会パンフより）

可能な限り在宅で「訪問」「通い」「宿泊」の24時間365日対応。

比較項目	特養（特別養護老人ホーム） 例）入所定員100人短期入所定員20人	小規模（小規模多機能型居宅介護施設） 例）登録定員25人通所サービス15人/日
建設費	約15億円	数百～数千万円（賃貸等も可能）
税金投入概算（内訳）	約9億2千万円 県補助（255万円/人） 3億6百万円 市補助（350万円/人） 4億2千万円 市借入助成（償還元金4分の1） 1億9350万円	市から約3千万円のみ ※単純に比較すると特養一つの建設費で小規模を30作れる！
建設に伴う保険料への影響額試算	特養一つ増えると第1号被保険者一人当たり1ヶ月 66円の増	小規模一つ増えると第1号被保険者一人当たり1ヶ月 6円の増 ※11倍の差！
小規模の特性	■機能改善 家族との連携や利用者の精神的安定を保ちながら、トータルで機能改善に繋げる事が出来る。 藤沢市の独自加算として、改善の見られた利用者についてのみ300単位が認められる。また、機能改善へのリハビリテーションで「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士」など専門職が利用者のメニュー策定や相談にのることにも独自加算が200単位付く。もっと改善の可能性が見込まれるのではないかと！（裏面参照） ■認知症への対応 藤沢市平成25年3月末時点で要介護認定を受けている方は15,471人、そのうち約半数にあたる7,500人（8.2%）が何らかの認知症を発症と考えられている。 住み慣れた地域の中で、途切れないサービスをいつも同じ担当で対応してくれるところが、認知症に対する介護という点で大変有効である。	
市内の施設数	特養は、現在12施設 定員950人分ある。 2013年4月現在待機者数1801人（12施設申込み者名寄せ実人数）で年々増加傾向。	小規模は、市内に現在13か所。 登録定員296名に登録者は204名。
市の建設計画の現状	「県の第5期介護保険事業計画策定で示した施設整備の必要数は、15年度の65歳以上人口の1.5%で1478人。定員数950人差し引き528人分不足。南部にサステナブルタウン含む2、北部1施設、合計300人分整備に支援したい」との13年6月市議会での市答弁。	◆福祉避難所や障がい者雇用のカフェ等の新たな付加価値をつけることについては、今後先進都市の事例や小規模事業所連絡会の意見を聞きながら研究したい（6月市議会 / 原田市議への市答弁） ◆小規模多機能型居宅介護サービスの必要性、重要性は更に増すと見込まれることから、その需要に見合った施設数を計画に位置づけたい（9月市議会 / 同）

課題は裏面参照

原田提案 ➡ 特養をこれ以上増やさずに、機能回復に効果の発揮できる小規模多機能施設を、最低でも小学校35区毎に一つ以上、地域のコミュニティ拠点としての付加価値に市一般財源から投資する制度設計を！

待機児対策も 小規模地域型保育で。

▼「横浜方式」では解決しない。小規模保育で藤沢方式を！

藤沢市で今年4月に未入所になった保育園待機児数 1,138 名。保育園の増設、増築などにより定員数を増やしても一向に需要に追い付かない。名ばかりの「景気回復」に雇用情勢の改善は乏しく、家計の収入減など経済的理由から共働き世帯が増加している事などをを受けて、全国的に認可保育園への入所を希望しながら入れない「待機児童」が増え続けているのである。

安倍政権は「待機児童5年でゼロ」を掲げ、横浜の取り組みをもてはやしているが、保育所に入れずに育休を延長した「育休中」、自宅での「求職中」などを対象外としたものが「横浜方式」であり、この国基準（※）で保育園をつくればいい、そのために民間を参入させればいいというものではない。

実態を反映した待機児数ゼロを目指した小規模保育で、保育の質に行政が責任を持つ仕組みこそが求められている。

「子ども・子育て支援関連3法」により定員6人以上19人以下の施設で、3歳未満を対象に具体的な認可基準等が検討されているが、3歳以上も対象に含めて、より身近な地域で空き店舗や空き家などを活用できる仕組みを行政で整え、民間事業者やNPO、地域の高齢者の力をかりて早急に実現するべきである。

同時に、保育の質の確保については、行政の責任で保障する仕組みも重要である。（2009年10月号ニュース参照）

	待機児数（潜在含）	待機児数（国基準）	認可保育園定員数
2013.4	1138名	277名	5009名
2011.4	748名	254名	4664名
2009.4	402名	144名	4042名

※■待機児童数「国基準」■

- 2001年 厚労省が「待機児童」から除外したケース
- ①特定の保育所だけを希望して待機している場合
 - ②認可保育所へ希望しても入れずに自治体の補助を受ける認定保育施設等に入っている場合
 - ③求職中の場合
 - ④入れた園が家や職場からも遠く転園を希望する場合

国による実態を無視した数合わせは、とりわけ小泉政権下で進められた規制緩和等によって「保育の質」の面でも様々な問題を招いている。厚労省は2008年に「新待機児ゼロ作戦」として、今後10年間で保育所などの受け入れ児童数を100万人増やすなどの目標を設定。働きながら子育てをしたい親の希望をかなえるため、保育サービスを「質、量ともに強化する」としたが、あくまでも「待機児童」の定義は変えないままなので、本質的な待機児童数の把握すら出来ていないのが現状であり、国の補助や交付金に頼る自治体も国に準じた「待機児童解消」策になりがちなのである。

ちなみに、藤沢市の場合、①～④を含めた※「潜在的な待機児数」をカウントするように原田市議などが意見してきた事で、より実態把握は進み定員数拡大に動いているものの課題解決には至っていない。

リハビリ常勤で
どこまで
機能回復！？

提案

小規模介護施設での、 リハビリ専門職による機能改善の効果検証を。

小規模多機能型居宅介護施設の特性は表面に記載しましたが、より効果的な運用を図るための提案です。

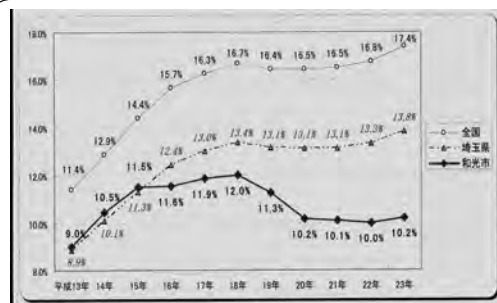
小規模施設にとって、単価の高いリハビリテーション専門職を常勤で雇用することは困難で、要介護者のメニュー策定や相談以上に出来ません。

適切な運動指導や日々の状況を見ながら修正を加えて、機能改善に向けてより効果が発揮できるようにすることが大切なのです。

これには、介護職の方が代わって指導する限界もあり、特に、「訪問」「通所」両方で、個人にも複数の人にも目配りが出来る点でも、小規模においては、より指導効率が高いはずであり、リハビリ専門職の常勤が期待されます。

そこで、プログラム作成や個別指導をするためのリハビリ専門職を常勤で配置しようという小規模施設に対して、来年度一年間に限りトライアルのチャレンジとして、900単位程度の保険外で市の補助を認める取組みは出来ないか。

その結果を検証し、実際に小規模多機能で常勤職を置くことどの程度の機能改善が図れるのかどうか調査し、介護度上昇の抑制、ひいては医療費抑制の効果についても検証する価値があると考えます。



このグラフは、埼玉県和光市の要介護認定者数の推移です。

全国平均が上昇を続ける一方、介護認定者数が約半数に抑えられている要因は、地域単位で、高齢者事情、要介護者一人一人に対するケア方針が「地域ケア会議」等ですっきりと議論され、小規模施設の活用や効果的な機能改善に向けた指導に自治体が責任を持ち、民間事業者との協働を推し進めているからなのです。



市議＜会派：アクティブ藤沢＞

元市議

原田トモコ・タケル事務所

藤沢市朝日町15-2 TEL28-1515 FAX28-1500

ふじさわ市民の党ニュース'13.12月号

◆当チラシ配布ボランティア募集！

- ▼トモコメール odakars@jcom.home.ne.jp
- ▼ブログ <http://d.hatena.ne.jp/tomoko-harada/>
- ▼タケルメール pu4t-hrd@asahi-net.or.jp
- ▼原田タケル公式サイト <http://www.ne.jp/asahi/takeru/harada>
- ▼ブログ「子育て現場レポート」 <http://occhan.asablo.jp/blog/>



ボランティア& カンパ募集中！

- ▼横浜銀行 藤沢支店 普通1330689 原田タケル
- ▼郵便振替 00240-3-95535 原田タケルを応援する会